

低い意識乏しい情報

「朝起きたら、家の前は川になっっていました」

岡山市東区竹原地区。砂川沿いに住む女性は、眼前に積まれた土囊を見つめながら、昨年7月の大雨の様子を昨日のことのように語った。水は堤防を越え、周辺の住宅や田んぼに入り込んだ。水かきは女性のひざ近くまで及んだという。

だが、避難した人は少なかった。市はこの時、付近の650世帯1552人に避難指示を出したが、避難所の角山小学校に集まったのは15世帯24人。今月4日の大雨時も避難勧告で逃げてきたのは10世帯20人だった。

大雨になると赤磐市の山間部で降った雨が砂川に流れ込み、一気に増水する。砂川を管理する県の試算では、洪水が起きな

県都の針路

岡山市長選を前に

下

防災



砂川が氾濫（はんらん）し、濁流が住宅の庭まで流れ込んだ＝2012年7月7日、岡山市東区、池本浩司さん提供

いような全面的な改修工事を施すには約100年かかる。

住民の低い避難意識に、岡本道弘・東区長は「地球環境が変わったせい、か集中豪雨も増えた。今までのような感覚ではない」と危機感を募らせる。

□ □

県によると、昨年4月現在で県全体の自主防災組織の組織率

は55・2%で全国43位。岡山市の組織率はさらに低い54・1%

にとどまる。安友公夫・市危機管理課長は「災害が比較的少ない地域性が組織率の低さに影響しているのでは」と話す。

市には、これまでの防災対策事業が十分ではなかった、との反省もあるという。東日本大震災後、住民から「目に見える対策がない」「施策にスピード感

がない」との指摘が市に寄せられることもあった。このため市は昨年から津波による浸水が想定される地域に標高を示すプレート

の設置を始めた。南海トラフ巨大地震の被害想定も独自にまとめ、今年8月には児島湾沿岸などに防災無線を12機取り付け、今月には防災マニュアルを全戸配布した。

□ □

だが、対策は緒に就いたばかり。まだ課題も多い。

「地震が起きたとき、とてもみんなで助け合える態勢ではない」。岡山市北区の分譲マンションで管理人を務める男性(65)はあきらめ顔だ。

「地震が起きたとき、とてもみんなで助け合える態勢ではない」。岡山市北区の分譲マンションで管理人を務める男性(65)はあきらめ顔だ。

「地震が起きたとき、とてもみんなで助け合える態勢ではない」。岡山市北区の分譲マンションで管理人を務める男性(65)はあきらめ顔だ。

小中校建物 進まぬ補強

■ここもポイント！■

岡山市内の公立教育施設の耐震化はどうか。8月に文部科学省がまとめた調査結果を見てみると――。

幼稚園85棟のうち耐震化が済んでいるのは84.7%で、全国平均79.4%を上回ったが、小中学校633棟では71.2%で、全国平均88.9%を下回っている。耐震性がない、あるいは確認できていない小中学校の建物数（非木造）182棟は、全国の市町村の中で5番目の多さだ。

耐震補強を具体的に検討するための2次診断などをしていない小中学校の建物は18棟残っていて、この数も全国の市町村でワースト32位となっている。

ただ、市教委によると、災害時に避難所になる公立小中学校の体育館は2011年度までに耐震化が完了している。

平成23年11月の岡山市定例市議会でさとう人海が提案した「海拔プレート設置」が実現し、また平成23年6月の岡山市定例市議会で提案した「防災無線取り付け」が実現したことが朝日新聞平成25年9月19日に掲載されました。